

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170400410), 法人名 ((有)ケアネット), 事業所名 (グループホーム みやこ), 所在地 (札幌市手稲区前田12条10丁目13-8), 自己評価作成日 (令和3年9月10日), 評価結果市町村受理日 (令和3年12月16日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400410-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは民家型一軒家タイプのグループホームです。閑静な住宅街にあり、ホームの前には公園やパン屋さん、周辺にはコンビニ、河川敷の遊歩道があり、暮らしやすい環境にあります。ホームからはいつも公園で遊ぶ元気な子供たちの声が聞こえ、その姿を微笑ましく見守る入居者様の姿があります。ホームの敷地には家庭菜園もあり、ご近所様のご厚意もあり、様々な野菜やお花を栽培し、その成長を見守り、収穫、味わう事がみなさんの楽しみになっています。ご近所様や退去後のご家族様がふらっと立ち寄り、野菜や山菜等差し入れて下さったりと、あたたかい地域の方々を支えられて日々ホームは運営しております。グループホームに入居してからも、その人その人に合わせた生活が送れるように外出を始め柔軟に対応しています。年齢も幅広いスタッフが在籍しており、そのスタッフの年代を活かしたケアも取り入れており、多様な対応に心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市手稲区郊外、閑静な住宅街が連なる一角に普通の家屋として立ち並んでおり、9人1ユニットというグループホームの原点というべき少数介護で、設立の平成12年以降、認知症の啓蒙や情宣を地域に発信しながら今日に至っている。建物は木造の2階建てで、1階に2名の2階に7名の居室があり、計9人の高齢者が生活を共にしている。事業所は公園に面し、公園での子どもの活発な遊び声や運動を眺めるに留まらず、公園の草花の手入れや朝のラジオ体操等に利用者も参加するなど、社交の場としても活用され、季節を問わず憩いの広場となっている。当事業所の優れている点は、介護保険施行とともに1ユニット9人体制で開設し、その少人数での特色を生かした対面での介護、一人ひとりの特性を生かした対応に心がけ、地域の社会資源というべき町内会活動や老人クラブ、趣味の催しについても積極的に取り組み、地域との垣根のない相互交流に努めている点を挙げたい。現状、コロナ禍で交流自体が沈滞を強いられているが、家族とは「おたより」を中心に生活の様子紹介や意見の聴取に努め、またアンケート調査の回答も高く、内容でも感謝の言葉が多く占め、当事業所の質の高さを示している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたホームを目指し、「ゆっくり、楽しく、一緒に」をモットーに取り組んでいる。ホームの理念はもう少し共有したり、日頃から気かけられるようにもう少し努力したい。	法人理念は廊下や事務所に掲示している。また当事業所独自の理念「入居者様も、家族も、スタッフも笑顔でいられるホーム」は事務所に掲示し、会議や研修会等に確認、共有して利用者のサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブのカラオケ会への参加など積極的に行っていたが、コロナウィルスの影響で、会自体が開催されなくなっている。運営推進会議の資料を配布する際に一部の会員の方とは交流が続いている。また会を通じて知り合った方に関しては見かければ挨拶する関係性は維持できている。	開設以来21年を経過し、地域との交流は日常的となっており、町内会行事や地元の催し物に参加している。日課の散歩では近隣住民と挨拶や会話等を交わし利用者の楽しみとなっている。また隣接する公園を活用して、地域住民との交流や団欒の場とし、積極的に付き合いを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の方への取組を発信する事で認知症の人の理解を広めていけるように努めていたが、現在はコロナウィルスの影響で行われていない。コロナウィルスが落ち着いたらまた積極的に対応などを発信していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催できていない中、活動報告書を配布する際に声をかけていただいたり、雑談の中で、ホームの様子を伝え、労っていただいていたたりしている。意見はあまり聞かれないが、今後も気軽に話せる関係性は維持していきたい。	コロナ禍であり書面での開催だが、以前は定期的に開催されており、町内会役員、老人クラブ、民生委員、地域包括支援センター、家族、児童養護施設の職員等の参加があり、行事報告、ホームの状況、災害対策等の報告があり、その後質疑応答が交わされ、利用者家族には、会議記録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の担当者の方への電話などで、気軽に質問などさせていただいている。また、包括支援センターの担当者さんとは顔見知りの関係性ができており、他ホームの運営推進会議などの開催状況なども教えていただいている。	市の介護保険課や手稲区の相談窓口とは、制度の改正点や運用での疑似解釈について電話や窓口で気軽に問い合わせられる関係で、情報交換も随時行われており、信頼できる関係となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年度、身体拘束を行った事例があった。会社全体の会議でも検討がなされており、この際は会議を繰り返し、現場も運営側も葛藤があった。今後も類似事例があった際にも身体拘束をしないケアの実践に努めていきたい。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、3ヶ月ごとに委員会を開催している。内容的には現状の介護実体を検証し、また近年にあった不適正ケアの検証や拘束の予防方法等々、話し合いを行いながら職員にも徹底し抑制も拘束も無縁なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束について担当者を決めて、勉強会を行い、取り組んでいる。R3. 8月は特に月間目標を「グレーゾーンについて考える」として取り組んだ。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の自立支援事業を利用していた方が、昨年度、成年後見人制度へ移行した事例がある。今後も必要な方には必要な制度の利用を勧められるように知識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、見学時、面会時にも不安や疑問点はないか都度伺うようにしており、改定の際にも書面や対面で説明させていただき、疑問点などがうかがう機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や利用者さんの事でお電話した際などに、ご家族の話聞く機会を設けている。あまり意見などは聞かれないが、LINEなども利用していただき、ご家族が意見を言いやすい環境を整えるようにしている。	利用者一人ひとりの生活の様子を「おたより」にして毎月家族に送っている。家族の訪問時には何でも話してもらえるよう、雰囲気作りにも考慮し、意見や苦情を聴取している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己評価を年1回行っており、自己評価を参考にしながら、管理者と面談を行い、意見を聞いたりする機会を設けている。また、スタッフによっては適宜面談を行い、悩み事などについて話し合う機会を作りにしている。	定期的に職員会議、カンファレンスでの意見交換がなされている。また自己評価を毎年行い、客観的により良いケアの検証ができる体制が取られている。本部からは定期的に来訪し、職員の意見、提案等をくみ取り職員の意欲の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、各館と管理者と取締役が集まって介護を開いており、最低賃金改定のある10月やボーナス時期などに特に処遇について議題に上がっている。また、各スタッフのモチベーションなどについても意見の交換が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を意識してスタッフ会議の際にみんなで勉強会を行っている。また、オンラインでの外部研修も積極的に参加するようにしている。コロナウィルスのみん延がなければ、外部の研修も希望者については積極的に参加できるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	手稲区の管理者会への参加など、横のつながりも大切にしている。統括責任者は研修の企画などにも携わっており、グループホーム以外の研修会へもお誘いがある事もあり、今後も積極的に活動へは参加していきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅などにお邪魔して面談を行っている。使用していたサービスの担当者にも協力してもらい、情報をいただくことで、本人が安心して住み替えを行えるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にはご家族からの要望、相談等聞き取りを行い、ご家族の協力を頂きながら、ご家族と一緒にご本人を支えられるような関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にはホームで行える事、行えない事をご了承頂き、ご本人ご家族の課題を解決出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員といった関係性だけではなく、一個人として共に支え合い、お互いに意見交換や相談を行い関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム、ご家族共に協力し合い、ご本人を支え合う関係性作りに努めている。また、ホームのSNSを通じて日頃の様子を写真や動画でお伝えし、面会が出来ていない時でも状況が伝えられるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、馴染みのお店、かかりつけ医等、本人が大切にしてきた関係性を継続出来るよう支援している。	今までの関係性を重要な視点と考え、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に重ねられるように支援している。具体的には家族との外出、お盆の墓参りや、神社の参拝等、一人ひとりの今までの暮らしが途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独りの時間も尊重しながら、数名で過ごす時間、みんなで過ごす時間等、その時のご本人の気分や性格を考慮しながら共同生活を送りやすいよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人、ご家族の希望時には相談に乗らせていただいている。また、終了後も定期的に訪問して下さるご家族もあり、関係性が途切れる事無く続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりからご本人や家族、知人から希望を聞き取ったり、意向を探る事で、その人らしい生活が送れるよう努めている。	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように支援している。	本人が最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階での希望・意向に関して、定期的に具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、環境等ご本人、ご家族からの聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、精神面、過ごし方の把握に努め、職員それぞれの気付きを日々の申し送りやケア会議を通して共有している。ご本人の潜在能力を引き出せるような声掛け、ケアを大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望の他、各職員の気付きや取組を共有し、ケアプランに取り組んでいる。また、医療面、福祉用具の面からも関係者へ相談、意見を頂きケアに反映している。	身体の変化や、本人、家族の要望を聞き、医師や看護師等の医療側との意見交換を行い、3ヶ月ごとにケアプランを見直している。また突発的に変化が生じた場合は、随時再検討を行い、実情に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやケア会議での共有の他、個別記録にはご本人の発言や行動を記載する事で、言語化、数値化した記録が出来る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人希望時にはなるべく希望に沿った対応が出来るよう、ご家族、関係者への連絡、了承を得た上で希望を叶えられるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手稲区の有志による多業種の交流会に参加しており、小規模多機能、老健などの職員さんと情報交換、共有、研修を共同して行う事でお互いに相談したりする関係性を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を伺い、馴染みのかかりつけ医や訪問診療を利用している。	かかりつけ医との関係は良好で、日々医師の来訪があり、また訪問看護も週に1度の割合で健康チェックを行っており、安全で安心できる医療体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護にて日常的な健康チェックや相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族、医療機関との連携を図り、退院後のホームでの生活をスムーズに送れるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重度化、終末期のご本人、ご家族の要望をお聞きし、ホームでの可能な対応を説明、同意の上で希望を叶えられるよう支援している。	契約時に重度化のリスクと対応について説明し同意を得ている。直接的な看取り介護は未経験であるが、利用者のどのような意向にも沿えるよう、事業所として検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等には報告、連絡、相談をして速やかに対応している。訓練などは実践力が不足している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄品の在庫などは毎月確認している。避難訓練を通して実践力を高めている。	災害に備え備蓄品を用意し、冬季災害時のストーブも準備し、年に2回の災害訓練とともに、突然の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を一個人として尊重し、対応を行っている。	接遇は介護の基本であることを常に意識して介護に臨んでいる。特に排泄誘導や入浴時等で尊厳を損なっていないか、礼を逸していないか、職員間でお互いに注意し日々取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しくなってきた利用者様も増えている。また、要求が多く対応できていない様子もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在、コロナウィルスの影響で外出などは控えざるを得ない状況ですが、ホーム内で楽しめるようにカラオケやお祭りなどの行事を行い、気分転換を図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前からの行きつけの美容室や、地域の美容室に行く他、毎日のスキンケア等、希望の化粧品を用意したり、お手入れの手伝いを行っている。気候や外出先等に合わせ、お洋服の助言やコーディネートを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか、材料を伝え、何が作れるか相談したりするなどして食事を作るようにしている。盛り付けや、食器洗い、食器拭きなども行う時間を作っている。	献立は予め用意せず、利用者の希望を優先し、また冷蔵庫等の食材と相談しながら食事を提供している。料理の各場面でお手伝いをお願いしたりと、みんなの参加で笑いの絶えない食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療とも連携し、都度相談し「食べやすい」「飲みやすい」様に形状や代用品を使用したりして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシなどもその方に合わせた物を使用し、うがい時は飲み込んでしまう方には飲み込んで安全な歯磨きジェルを使用する等工夫して、口腔衛生に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパン、パットの種類を検討しつつ、介助や声掛けでトイレ誘導を行っているが、介助量は増えている。	トイレでの排泄を基本として、時間で誘導し排泄を促している。その他、利用者個人の排泄サインも職員で共有し、本人が負担にならない様、自然な形で排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が何日ないかをスタッフで共有して薬の使用をしている。また、自然排便を目指して青汁などの提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低でも週に2回の入浴となっている。その方の身体状況に合わせて、シャワー浴、清拭含め、臨機応変に対応している。	お湯は毎日浴槽に入れて準備し、週2回を目途としているが、その時の状況に応じ柔軟に入浴を支援している。入浴拒否者へは時間や介護員に変化をつけ、無理強いしない対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況、様子に合わせて休息の時間などを設けるようにしている。就寝時間や起床時間も特別決まってははいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、いつの誰の、どのタイミングの薬か確認している。何故この薬が出たのかどのような薬などの説明を聞き、服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍を踏まえ、ホーム内での毎月のイベントには入居者の要望や、普段の会話や季節をヒントに取り組んでいる。また個別でのドライブや、誕生日にはご本人の希望や嗜好を取り入れたプランや食事を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、定期的な散歩の他、個別のドライブにて対応している。	利用者の希望を優先して、積極的に戸外活動を行っている。公園や花壇や菜園等を含め個別や少人数で臨機応変に外出している。年間を通して散歩に行き、戸外に出て自然の移ろいや地域の人達にふれあい、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、希望時には買い物代行にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人への電話希望時にはお話ししていただいている他、ご家族からの電話の取次ぎ、SNSを使用したビデオ通話を行っている。ご家族へは毎月職員からお手紙にて日々の様子をお伝えしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や装飾を通して季節を感じていただけるように取り組んでいる。吹き抜けや玄関から気持ちの良い陽気を取り入れている。	共同空間であるリビング、玄関等は、採光、風通しもよく、一部が吹き抜けて、二階からは一階の様子を眺めることができる。居間の壁面には、利用者の手作りの作品、季節の飾り付けがされている。各所には椅子が置かれ、ゆっくり寛げるように工夫されている。食卓スペースは明るく家族的な温もりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、大小のソファや椅子を配置する事で自由に過ごしていただけるように取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真を持参して頂く他、ご本人の身体状況に合わせた家具の配置を行う事で過ごしやすい環境を作るよう取り組んでいる。	居室の入り口には手作りの表札が掛けられている。部屋には馴染みの家具、写真、趣味のものが飾られ、居心地よく工夫されている。クローゼットも設置されていて、整理整頓されて清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家型一軒家な建物上、バリアフリーではないが、そこを利点とし、階段での生活リハビリや、玄関の段差を利用したご本人の注意意識を維持している。		